厚岸水鳥観察館だより
べかんべうし
別寒辺牛

2023年７月発行
NO.42

マダニの生息分布と菌の保有割合『ライム病』を防ぐには

～厚岸湖・別寒辺牛湿原学術奨励金の研究事例を紹介します～

厚岸湖・別寒辺牛湿原学術研究奨励補助制度とは？
厚岸町では厚岸湖、別寒辺牛湿原、ほか町内の自然環境を次世代へ引き継いでいくため、専門分野の学生や研究者に支援をしています。
今回も、この制度を活用した研究の一部をご紹介します。

マダニとライム病

マダニはさまざまな動物や人間に寄生し、吸血することで病原菌を人に感染させます。厚岸町には、主にシェルツェマダニという種類のマダニが生息しており、かまれるとミイム病に感染する恐れがあります。

ライム病はマダニが野ネズミや鹿を経由して病原菌を人に感染させることで引き起こされる病気で、発熱や吐き気の症状が現れます。この病気は北海道で感染する人が多くみられ、北海道における鹿の増加が原因であると考えられています。

今回の研究は、厚岸町に生息しているマダニの生息状況や、マダニがライム病を引き起こす菌を保有している割合を調査することを目的としています。

調査方法

マダニは葉っぱの上などで寄生する動物を待ち構えているため、旗振り法（植物上で布の旗を振ることで、虫たちを絡め取る方法）により、マダニを採取します。

採取したマダニのDNAを調べることにより、ライム病を引き起こす菌を保有しているか確認します。

調査は、厚岸町内の９カ所で行い、夏と秋にそれぞれ採取しました。

厚岸町のマダニの分布と菌の所持

調査の結果、次のことが判明しました。

①厚岸町の北部や西部より南部にマダニが密集しており、秋より夏にマダニが多く生息している。
②DNA検査による菌を保有している割合はおおよそ５匹に１匹で、地域や季節によって割合に差はあまりなく、厚岸町全体でマダニが均一にライム病を引き起こす菌を保有している。

ライム病を予防するには

今回の研究結果から、厚岸町の南部で特に夏、マダニが多く生息していることがわかりました。その地域には、愛冠岬や原生花園あやめヶ原などの観光名所も含まれます。

マダニは植物の上で次に寄生する動物を待ち構えています。むやみに茂みの中へ入るとマダニにかまれ、ライム病に感染するリスクが高くなります。

森林や草が生い茂った場所に入る時には細心の注意を払い、虫よけスプレーの使用、手袋や長袖を着用し、肌の露出を避けることでマダニにかまれることがないように予防しましょう。

東京大学の塚本宝氏による『厚岸町におけるシェルツェマダニの密度とライム病菌保有率』より
報告書などの本文は、水鳥観察館のホームページで見ることができます